

岩手県 野田村

～復興まちづくりシャレットワークショップ2013～
8月11日～8月14日

■経緯

東関東大震災以降に、被災3県を中心とした東北地方の各市町村では防災復興計画が策定された。しかし使用できる復興支援のメニューが限定されていた事や、津波に対して全てハードな施策で対応しようとする流れが出来てしまった事などから、地元住民の生活像を意識していない様に見られる復興計画が多く策定されてしまった。そこで、野澤研究室では「被災住民を主体とした復興まちづくりの計画主体を組み立てる」という事を目標にしたワークショップをシャレット形式で、首都大学東京を初めとする他大学と共に岩手県野田村を舞台に2011年度から毎年行っている。今回は2013年8月11日から14日にかけて行われた第3回野田村シャレットワークショップ（以下野田CWS）について報告を行う。

■第1回野田村CWS

開催期間：2011年7月28日～29日

目的：野田村CWSのスタートステップ。野田村の避難生活・仮住まい・復興初期という再建プロセスを読み取ったうえで、産業復興の将来像や中心市街地のゾーニング等、リーディングプロジェクトの選出を行った。

成果：城内地区（避難経路の作成・コミュニティの場の創造・陸中野田駅からの動線計画等中心市街地のゾーニング）4案、下安地区（産業復興の将来像）1案の合計5案が作成される。

講評：5つの案全てがイメージレベルの提案であった。しかし城内地区の4つの提案では中心市街地内に存在する大鳥居を中心とし、市街地と海を繋ぐ大通りを中心とした市街地作成の提案が多く見られ、下安地区の提案では観光と漁業の2つを見込んだ新たな産業形態の提案がされ、これらの提案が次回以降のCWSにおけるリーディングプロジェクトの基本軸となっていた。

■第2回野田村CWS

開催期間：2012年8月18日～21日

目的：昨年の野田村CWSの提案を軸に、実現可能性を求めた。野田村の復興まちづくり計画のリーディングプロジェクトとなる5つの提案テーマをCWS期間前に作成し、CWS内において5つの提案テーマの内容作成を行った。

成果：CWS期間前から高台地のデザイン、大鳥居周辺の復興方針、沿岸部の復興方針と移動手段、生業の再建モデル、村民主体の新たな防災訓練の5つのチームを作成しCWS期間内に其々から提案シートが提出された。また各シートの提案概要を村民を初めとする野田村民の前で発表した。

講評：昨年第1回と比べるとより具体的な提案内容となった。しかし、村内住民の復興に対する意図や、村内に存在する屋主に対する理解が欠けており、住民が何を求めているのかを把握しきれず、野田村に適した提案とは言えないものも存在してしまっていた。

過去の提案では文献調査が中心であった為、提案内容が一般論に収束してしまっていた。そこで第3回では、村内での産業体験を通じた村内の復興への意識調査等を中心としたCWSが企画された。

■第3回野田村CWS

開催期間：2013年8月11日～14日

目的：野田村の復興に対する村民意識及び屋主の理解を行い、今までに提案してきた内容を見直すことを目標に開催された。提案中心に内容から野田村の村民体験を中心とした物に代わり、やや変則的なCWSを行った。

■お手伝いさせてもらった方々と場所



■参加メンバー

- 農業A班: 大石裕貴 (首都大学東京) 笠原彩香 (工学院大学)
- 農業B班: 田鎖清一郎 (工学院大学) 伊豆拓也 (工学院大学)
- 農業C班: 石塚大吾 (首都大学東京) 太平裕貴 (工学院大学)
- 漁業班: 岩阪 英将 (首都大学東京) 江間 諒輔 (首都大学東京) 高橋 進吾 (首都大学東京)
- 山下純也 (工学院大学) 山崎徹也 (工学院大学)
- 工房班: 鳥海浩哉 (首都大学東京) 岡智史 (首都大学東京)

■スケジュール

11 全体説明

グループ分け

グループ別見学

LIGHT UP NIPPON 2013

グループ別お手伝い

12-13 グループ別にまとめ作業

14 体験発表

岩手県 野田村

～復興まちづくりシャレットワークショップ 2013～
8月11日～8月14日

■体験作業報告（農業班A～C）

農業班A

スケジュール

- 米田さんのもとでお花の出荷のお手伝い
- かまどつきやお手伝い（花の販売）
- 宿舎で作業報告
- かまどつきやお手伝い
- 小野寺さんのもとで雑草めき
- 小野寺さんのきゅうりの取り除き

班メンバー



体験内容

花の販売（花束をつくる作業）



ヒヤリングを通して気づいた点・問題点

村役場と村民の食い違い
 区画整理や移住のため必要となるハード的な計画を優先的にやっていきたい

若者の村離れ
 昔ながらの村で暮らす人とのつながりを取り戻すため、まずはコミュニティを築ける場所をつくってほしい

若者の村離れ
 野田村に暮らす若者の数は少ないが、村に暮らす若者の数は少ない

若者の村離れ
 東京で暮らす若者の数は多いが、野田村に暮らす若者の数は少ない

農業班B

スケジュール

- ラジオ体操
- きゅうりの出荷の準備
- 大豆の苗の除草作業
- 餅つき
- 田んぼの農業散布
- 小野寺さんのきゅうりの取り除き

班メンバー



ヒヤリングを通して気づいた点・問題点

復興作業がなかなか進まない
 復興作業がなかなか進まない

自分のことで精一杯で周りのことに目がない
 自分のことで精一杯で周りのことに目がない

コミュニケーションの場の再構築
 コミュニケーションの場の再構築

若い人を呼び込むにも小さい子供と一緒に体験学習を...
 若い人を呼び込むにも小さい子供と一緒に体験学習を...

野田村や久保に就職先が存在しない
 野田村や久保に就職先が存在しない

野田村は個人的な農家が少なく、お家は農業を営んで村へ行ってしまおう
 野田村は個人的な農家が少なく、お家は農業を営んで村へ行ってしまおう

野田村の産業としてもっとシイタケの生産量を増やし、集落に集めていきたい
 野田村の産業としてもっとシイタケの生産量を増やし、集落に集めていきたい

ハウレンソクの生産は楽しく記念するケースが多い
 ハウレンソクの生産は楽しく記念するケースが多い

農業をするにあたって、個人でやりたい人とグループを組んでやりたい人の両方がある
 農業をするにあたって、個人でやりたい人とグループを組んでやりたい人の両方がある

活動量の減少に伴ってパランスが不安定
 活動量の減少に伴ってパランスが不安定

ボランティアの人数がどんどん減っている
 ボランティアの人数がどんどん減っている

最終的には自立しているがなくてはならない
 最終的には自立しているがなくてはならない

高齢者が多いせいか、農業に対する意識がやや低い
 高齢者が多いせいか、農業に対する意識がやや低い

町の狭りがなかなか解らない
 町の狭りがなかなか解らない

企業をもっと呼び寄せていきたい
 企業をもっと呼び寄せていきたい

農業班B

スケジュール

- 小野さんのもとで互稼拾いと土の耕し
- 小野さんへのヒヤリング
- 宿舎で作業報告
- 米田さんのもとで花の収穫
- 小野寺さんのもとで雑草めき
- 小野寺さんのきゅうりの取り除き

班メンバー



体験内容



ヒヤリングを通して気づいた点・問題点

小野さんへのヒヤリング
 小野さんへのヒヤリング

単身農業者の希望
 単身農業者の希望

グループの形成
 グループの形成

単身農業者の希望
 単身農業者の希望

村民Aさんへのヒヤリング
 村民Aさんへのヒヤリング

単身農業者の希望
 単身農業者の希望

